

P16. 平成 26 年 8 月広島土砂災害地域に残る土砂災害伝説と過去の被災履歴

Frequency of Occurrence of Debris Flows and the Slope Disaster Legend Remaining in Asa-Minami District, Occured in Aug. 2014

○小笠原洋, 松木宏彰 (復建調査設計株式会社), 鈴木素之 (山口大学大学院 理工学研究科)

楮原京子 (山口大学教育学部), 阪口和之 (アジア航測株式会社)

Hiroshi Ogasahara, Hiroaki Matsugi, Motoyuki Suzuki, Kyoko Kagohara, Kazuyuki Sakaguchi

1. はじめに

平成 26 年 8 月の土砂災害が発生した広島市安佐南区八木地区には、かつて「八木蛇落地悪谷 (やぎじゃらくじあしだに)」という地名があり、「蛇王池 (じょうおういけ) 伝説」なる大蛇退治の伝説が存在することが、災害直後の報道などで報じられた¹⁾。蛇王池伝説は、阿武山に住み往来の人々を困らせていた大蛇を八木城主香川家の家来、香川勝雄 (かがわかちお) が退治した武勇伝である。本報告は、この蛇王池伝説と土石流との関連について、史跡や文献、地元の方からの聞き取り、旧地形、および土石流堆積物の堆積年代から考察したものである。

2. 史跡の状況

図-1 は、蛇王池伝説の碑と地元で「蛇王池の名残」として伝わる小池の位置を示したものである。碑は JR 梅林駅から北東 130m 程度の位置にあり、さらに 40m ほど山側に小池がある。また、蛇退治に使われた太刀がかつて奉納されていたと伝わる光廣神社も存在する。

写真-1 は蛇王池の碑と小池の写真である。碑は地元有志により昭和 27 年に建立されたもので、以下のような碑文が刻まれている。

「天文元年壬辰二月二十七日八木村阿生山字中迫に於て富村の勇士香川右衛門太夫勝雄大蛇を退治す 其の首富池に落ちて隠れたと言ふ因って蛇王池と稱す」

これを概説すると、「1532 年 (室町時代) 4 月 2 日、阿武山の中腹にて香川勝雄が大蛇を退治し、その首がこの池に落ちた。それを蛇王池と呼んだ」となる。

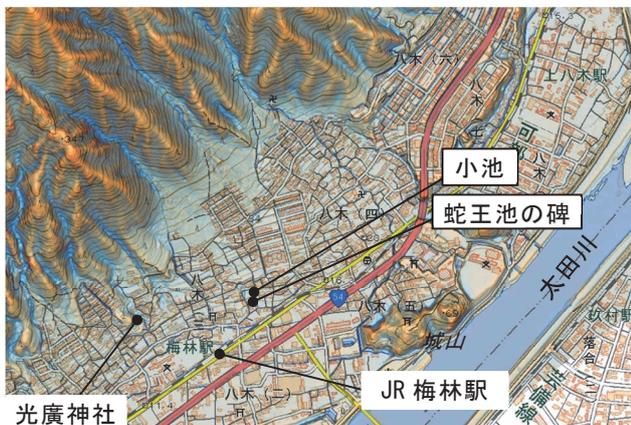


図-1 蛇王池の碑と小池の位置。本図は国土地理院発行 25,000 分の 1 地形図と朝日航洋 (株) 計測・作図による陰陽図を重ね合わせたもの。



写真-1 蛇王池の碑 (左) と小池 (右)

3. 文献の記述

蛇王池伝説の“原典”は、付近の八木城を治めた香川家の香川景継による「陰徳太平記」の八巻「香川勝雄大蛇ヲ斬ル事」である。以下に概説する。

「天文元年 (1532 年) の春、阿武山中腹に大蛇があらわれ、往来の人を悩ませた。八木城主、香川光景 (みづかげ) は若侍香川勝雄 (かちお) に退治を託す。

勝雄が退治に向かうと風が強く吹いて村雨となり、岩は崩れ、岸は裂け、山が鳴り、あたりが真っ暗となった。勝雄は格闘の末、大刀で大蛇を斬り落とした。首は大暴れして七八丁 (約 7-800m) 飛び、また一丁飛んだ。首は地を穿ち岩をくつがえし、血は川のごとく流れて淵となった。首は池に埋まったが、うめく声は人々の肝を冷やした。勝雄は退治後、池で刀を洗った。そこを“太刀のぶ川”と呼んだ。」

これらの記述は蛇王池の碑にもあるが、雨が降って岸が裂け、岩が崩れ、蛇の頭が淵に埋まるなどの記述は、土石流の諸現象を記述していると考えられる。

4. 地元の方の聞き取り結果

蛇王池の碑と小池付近の方に聞き取りを行った結果、以下のような証言を得た。

- ・小池のあたりは山からの伏流水が湧き出る場所で、かつて川のように水が流れ、野菜洗いなど生活に使っていた。小池は蛇王池の“名残”だ。
- ・碑がある一帯はかつて沼地状の水田で、常に水がたまった。体の半分くらいが埋まった。

- ・かつては大雨のたびに太田川が氾濫し、碑より下の低地が水浸しになった。

以上のように、蛇王池の碑と小池付近は伏流水の湧出地で、それがすなわち蛇王池の名残であること、碑の周辺が沼地状の軟弱地盤であることが判明した。同時に、現在は宅地化が進んで分かりにくいのが、蛇王池の碑より下流域は太田川の氾濫で、しばしば洪水被害を受けていた水田地帯であったことも判明した。

5. 地形

芸藩通志には、慶長 12 年（1607 年）の大洪水で太田川の流路が変わったと記されているが、蛇王池伝説に記される天文元年（1532 年）は蛇王池の碑の近くを太田川が流れていたと考えられる。

これを旧地形から検討する。図-2 は昭和 22 年（1947 年）撮影の空中写真に微地形や史跡の位置を入れたものである。これによると、現在市街地化している国道 54 号線沿いは旧河川流路と周辺の氾濫平野が判別され、阿武山からの土石流堆積物が堆積してできた扇状地も認められる。蛇王池の碑と小池は氾濫平野と扇状地のちょうど境界付近、その境界が湾曲した局所領域に位置している。地下水位が高い氾濫平野の軟弱層を取り囲むように土石流堆積物が分布するこの領域は、上流から流れてきた伏流水が地表に湧出し得る立地となっている。地元の方の証言とも矛盾しない。

6. 土石流堆積物の年代測定結果

平成 26 年 8 月の土砂災害が発生した八木・緑井地区、可部東地区では、土砂災害発生履歴を明らかにすることを目的に、鈴木ほか²⁾が現地調査および放射性炭素年代測定を実施している。表-1 は土石流堆積物中に含まれていた炭化物や有機質土の ^{14}C 年代測定の結果をまとめたものであり、可部東地区では 8~9 世紀、16~17 世紀、20 世紀に土石流が発生したことが推定されている。

蛇王池伝説に記される天文元年（16 世紀）は、これらの結果に合致している。

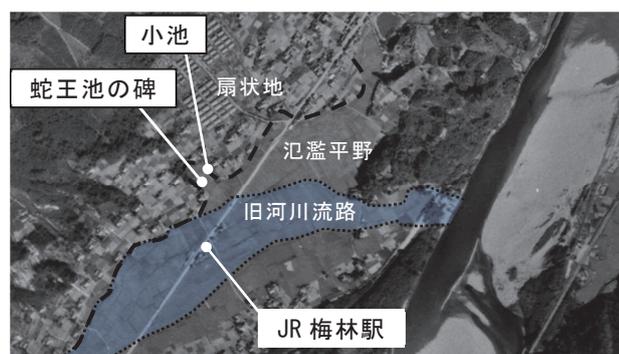


図-2 蛇王池の碑付近の地形。本図は 1947 年米軍撮影の空中写真に加筆したものである。

表-1 土石流堆積物から採取された炭化物の ^{14}C 年代測定結果。表中の KBH は可部東地区、OH は八木・緑井地区を示す。

Sample	Code-no.	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	Conventional ^{14}C age (yr. BP)	2σ	Calibrated age (BC/AD)
KBH-2	PLD-27508	-26.14	-1847 ± 15	AD	1961 - 1962
					1980 - 1982
					1956 - 1957
KBH-3	PLD-27509	-29.05	-480 ± 20	AD	2005 - 2009
					2009 ~
KBH-4	PLD-27510	-26.18	1185 ± 20	AD	774 - 888
KBH-5	PLD-27511	-26.47	350 ± 20	AD	1466 - 1529
					1551 - 1634
KBH-6	PLD-27512	-25.59	350 ± 20	AD	1464 - 1529
					1552 - 1634
					57 - 140
OH-1	PLD-27701	-24.74	1895 ± 20	AD	155 - 168
OH-2	PLD-27702	-27.60	1931 ± 21	AD	195 - 208
					25 - 126
OH-3	PLD-27703	-24.79	1314 ± 20	AD	658 - 715
					743 - 766
OH-5	PLD-27704	-25.39	-884 ± 18	AD	1957 - 1958
OH-6	PLD-27705	-24.18	1556 ± 21	AD	1994 - 1997
OH-7	PLD-27706	-28.44	1261 ± 20	AD	426 - 554
					678 - 774
OH-8	PLD-27707	-23.61	130 ± 19	AD	1680 - 1764
					1801 - 1892
					1908 - 1939

7. 考察

これまで述べた事項から、蛇王池伝説は、1)伝説に関連する地名、史跡が碑の周辺に集中すること、2)蛇王池伝説には土石流の諸相を示す記述があること、3)蛇王池の碑は旧太田川の氾濫平野を取り囲むように分布する土石流堆積物の局所領域に立地し、伏流水が湧出している立地であること、4)地元の方の証言は地形的に矛盾しないこと、5)土石流堆積物中の ^{14}C 年代測定結果では、八木地区と同じく平成 26 年 8 月の土石流被害が発生した可部東地区において 16 世紀頃に土石流が発生したと推定されることが明らかになった。

これらを総合すると、天文元年（1532 年）に土石流災害が発生し、それが後に武勇伝として伝えられていた可能性が高いと考えられる。

謝辞

これらの調査にあたり、(一財)砂防フロンティアの井上公夫氏には多大なご指導をいただいた。また八木地区の皆さまには聞き取り調査に協力いただいた。朝日航洋株式会社の小林浩氏には陰陽図を快く提供いただいた。ここに深く感謝の意を表す。

文献

- 1) 例えば <http://www.j-cast.com/tv/2014/08/26214022.html?p=all> など
- 2) 鈴木ほか (2015) : 広島市安佐南区および安佐北区の土石流発生頻度、平成 27 年度地盤工学セミナー報告会発表資料、(公社)地盤工学会中国支部。